

第1回 教職の魅力創造プラットフォーム会議 議事録

日時：令和6年8月26日（月）15：55～17：05

場所：山形大学地域教育文化学部会議室

出席者

出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
吉田 誠	山形大学 地域教育文化学部 教授
石垣 和恵	山形大学 地域教育文化学部 教授
江間 史明	山形大学 大学院教育実践研究科 教職実践専攻長
森田 智幸	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授
叶内 有希絵	山形県教育局 高校教育課 指導主事
伊藤 智	山形県立山形西高等学校 教諭
小笠原 空	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 4年
阿曾 圭佑	山形県立山形東高等学校 2年
矢口 真衣	山形県立山形西高等学校 2年
山科 勝	山形県立小国高等学校 校長
樋渡 美千代	山形市立第十小学校 校長
宮舘 新吾	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授

欠席者

委員 原田 朋奈 山形大学地域教育文化学部児童教育コース 3年

議事に先立ち、中西研究科長より、会議では、様々な立場からの意見交換を行っていただきたいこと、特に高校生や大学生が感じていることを、遠慮をすることなく発言していただきたい旨、発言があった。その後、委員の自己紹介が行われた。また協議事項は、「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

議 題

I 協議事項

1 教職の魅力創造プロジェクトの目的

森田委員から、資料3に基づき本プロジェクトの目的とこれまでの活動について説明がなされた。協議事項2における各プロジェクトの進捗状況の説明の後、あわせて意見交換を行うこととなった。

2 教職の魅力創造プロジェクト2024の進捗状況

叶内委員から、机上配付資料に基づき小学校教員体験セミナーについて、江間委員から、資料4に基づき聞き書きプロジェクトについて、森田委員から資料5に基づき学びのフォーラムについて説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

① 小学校教員体験セミナーについて

- ・ 小学校教員体験セミナーの参加者が 170 名と、これまでと比較して非常に多くなっており、うれしく思う。これは参加を働きかけてくれる先生方の協力があったからこそだと感じる。山形市以外でも受け入れ校の確保を進めていくなど、今後県内全域で取り組みを進める場合に、いいアイデアがあればお聞かせ願いたい。

(関連意見)

- ◇ 山形市以外に広げるにあたって、継続を考えた場合、それぞれの地域で、そして高校教育課だけでなく、義務教育課、教育事務所間での交渉、協力が必要だと感じる。
- ・ 小学校教員体験セミナーの参加者が非常に増加しているが、教員からの働きかけなど案内の機会が増えたための増加なのか、教員志望の学生の層が厚いのかどうか、聞き取りなどを実施してご存じの情報があれば、教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 聞き取りは実施していないが、以前から山形市以外の複数の学校でやりたいという声があった。今回、新庄北高校からの参加者が 0 名であったのは、教員志望の生徒が、セミナー開催当日に中学校のボランティアに参加するためである。そのため、来年度のセミナーへの参加者は、今年度と同程度と見込んでいる。
- ・ 高校生の方の教員志望にかかる所感を伺いたい。

(関連意見)

- ◇ 理系学生は研究をしたいと考えている生徒が多い印象。自分が通っている高校には、数学の研究を続けるための選択肢の一つとして教員の道を選んだ、という先生もいる。また、国際系のコースに所属している生徒は、教員というよりはグローバルなところでの活躍を目指す人が多いと感じる。
- ◇ どちらかという文系の学生のほうが教員になりたい人が多い印象がある。
- ・ 本地域では、地域おこし協力隊のメンバーが、高校生によりそって活動してくれている。その結果、地域おこし協力隊で活動したいと考える生徒も一定数いる。もともと志望があるかどうかだけでなく、特に中学生・高校生のタイミングで、同様に何らかのきっかけがあれば、教員を目指すようになるのではないかと感じる。
- ・ 教員志望の生徒のモチベーションを高めること、そしてきっかけを与えることが必要。

② 聞き書きプロジェクトについて

- ・ 高校生が読んだ感想やコメントをもらえる仕組みを検討したいとのことだったが、具体的な案があれば教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 学びのフォーラムで、入力フォームの QR コードを掲載した紙を配布し、関心を持っている方から感想をいただければと考えている。あくまでも、興味・関心のある方に回答していただければいいので、多くの人に強制する意図はない。

- ・ 高校生の方へ、こういったアンケートがきたら回答するか、また、何か思うことがあれば教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 例えば、この聞き書き作品を読んで、作成した方、またその恩師についてもっと知りたいとなった場合に、感想をこちらからフォームで送るだけでなく双方向で、作成した方や恩師の方とやり取りできるような仕組みがオンライン上などにあれば、よりいいと思う。
- ◇ 本校では、1学年のうち1割程度は教育系に興味をもっており、総合的な探究の時間の一環で、恩師のところに話を聞きに行く学生もいる。しかし、職場の労働環境の実態（ブラックかどうかなど）を調査する学生が多い印象がある。せっかく行くなら、この聞き書きプロジェクトのように、プラスの面を調査してもいいのではないかと感じた。

- ・ 双方向のやり取りができるような仕組みがとてもいい案だと感じたので、これからどう進めていくか検討していく。

- ・ 聞き書きプロジェクトについて、名前だけしか知らなかったのが、恩師と学生をつなぐ機会が増えればと思う。参加者の母数を増やすことは検討しているのか。

(関連意見)

- ◇ やらせるのではなく、あくまでやりたい人に参加してほしいので、大規模な周知は行わないかもしれない。まずは口コミで広まっていけばと思う。この聞き書きプロジェクトで作成した作品が、教員として働いていくなかで、5年、10年かけて上書きしていくための土台となればいいと思う。

③ 学びのフォーラムについて

- ・ 学びのフォーラムについて、特にまずは以前参加されていた方へ、感じていることをお聞かせ願いたい。

(関連意見)

- ◇ 面白い取り組みだと思う。今の校長という立場になって、教育に対する考え方のアップデートになればと、同僚の先生方へ、学びのフォーラムでも取り上げられている佐伯先生の本の内容について会議で取り上げたが、先生によって受け取り方に差が感じられた。教育センターに働きかけて、教員の研修システムである“Plant”に登録できるようにすると、教員の研修履歴にも記入ができてよいのではと思う。
- ◇ 大学1年生のころから参加しているが、現職教員学生や高校生などが参加しており、様々な視点から学べるので、普段理論のみを学ぶことが多い大学生の立場としては、とても有意義なものと感じた。
- ◇ 昨年度参加した際に、同じグループで山形出身なのは自分だけで、県外や様々な地域から参加されており、多様な視点からの話を聞くことができた。先ほど話があったが、総合的な探究の時間で、自分も教員の労働環境に関係したテーマを設定していた。学びのフォーラムに参加して、もっといろんな視点から研究できる可能性があることが分かった。

- ・ 先生方は本当に多忙で、だんだんと疲弊されていくのがつらいと感じる。学びのフォーラムは、先生方も元気になるし、高校生も勉強になる、前向きになれる

るイベントだと思う。先生方は多忙なので、急にお誘いしてもなかなかいけないことが多いので、自分も参加するので良ければ参加しませんかと、今のうちから声をかけていきたい。

- ・ 先生の教え方に着目してしまいがちだが、学びのフォーラムでは、先生の学び、経験に重きをおいているのがいいのではないかと思う。

3 今年度の今後の予定

森田委員から、各プロジェクトの実施時期は協議事項で説明の通りで、本会議の次回は令和6年12月15日（日）11:00より開催予定である旨発言があり、確認がなされた。また、学校で進む「働き方改革」のこともあり、平日17時までの開催を希望される声もある一方で、本会議は「教職の魅力創造プログラム」と連動して実施する必要があるため、12月15日に関しては日曜日開催にしたいという説明があった。

4 その他

江間委員から、やまがた教育振興財団について、山形大学の教職大学院等の修了後に山形県内の公立学校の教員を目指す学生に対して奨学金を貸与している団体である旨説明がなされた。加えて、やまがた教育振興財団が主催する教員養成シンポジウムの第11回が、「山形のこれからの教員養成を地域と大学で考えよう」というテーマで、12月22日（日）に開催予定である旨発言があった。

